

# 1億円産地を目指して!

## ★水稲育苗用ハウスの有効利用 ～冬の農閑期に向けた収入確保に挑戦～

皆さんの水稲育苗用ハウスは、5月の苗出しが終わると来期の育苗開始まで休眠していませんか。県内では、12月から2月の降雪期間は葉物野菜が少なくなりますので、この需要に向けて育苗後の休眠ハウスを活用した園芸に取組み、冬の農閑期の収入確保に挑戦してみたいはいかがでしょうか。冬の水稲育苗用ハウス内で、暖房無しでも栽培できる葉物野菜の1つに「オータムポエム」があります。トウの部分は甘くアスパラガスに似た食感と風味が楽しめる人気のある葉物野菜です。他にも小松菜やほうれん草、春菊などが適し、いずれも気温が低い分、収穫までに若干日数はかかりますが、品質の良い葉物野菜が生産できます。

### ● オータムポエム(アスパラ菜)

#### ★おすすめのポイント

生育期間は9月下旬から3月中旬のため、冬期間の育苗ハウスの有効利用が可能で、無加温で経費も少なく所得率が高い品目です。

#### ☆留意点

- ・収穫は、開花直前のタイミングで穫り遅れないように注意
- ・出荷調製時の花びら摘み作業に手間がかかります
- ・適期のは種・定植による初期生育に努め収量を確保
- ・生育初期の害虫防除と冬期間の換気(病害対策)が重要です



#### ◆品目の特徴

★(易・少) ←————→ ★★★(難・多)

品目	栽培技術	労力	初期投資	収益性	市場向き	直売向き
オータムポエム	★	★	★	★★★	★★	★★

#### ◆作業スケジュール

○: 播種、△: 定植、■: 収穫

品目	作型	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オータムポエム	直は	○						
	移植	○	△					

#### ◆目標経営収支(2aあたり)

収穫量	400kg
労働時間	100時間
粗収益	220,000円
経費	87,000円
所得	133,000円

※減価償却費、労働費は含まない

## ★農作業安全運動の実施について ～慣れてても、手順確認、事故防止～

**目的:** 新潟県でも毎年多くの農作業事故が発生しています。農作業安全運動は、農作業に対する安全意識の高揚及び農業機械の安全操作徹底等を通じて、農作業事故の未然防止を図ることを目的に毎年実施しています。

**運動期間:** 令和5年4月1日から5月31日まで

農業機械の利用が集中する期間を「春の特別期間」として、農家皆さんの取組みをお願いします。

#### 重点推進事項:

- ・周囲からの声かけによる事故防止
- ・作業前の周囲の安全確認とゆとりある作業の実施
- ・機械の点検・清掃時におけるエンジン停止の徹底
- ・こまめな休憩と水分補給による熱中症予防
- ・労災保険等への加入促進
- ・農耕車等の公道走行に係る法令遵守の周知徹底
- ・乗用型農業機械操作時のシートベルト・ヘルメットの着用徹底

★JA・農林課・普及センターでは、さまざまな品目の栽培指導や支援を行うなど、園芸生産をサポートしています。ご興味がある方は下記までお問い合わせください。

【問い合わせ】 ○JA新潟かがやき あがのアグリセンター(樋口・中島) TEL0250-62-2235  
○JA新潟かがやき ささかみアグリセンター(石山) TEL0250-25-7252  
○阿賀野市農林課農林振興係(直通) TEL0250-61-2478  
○新発田農業普及指導センター(野菜) TEL0254-26-9126  
○新発田農業普及指導センター(花・果樹) TEL0254-26-9155



# 安全確認と予防対策で公道での農機による死亡事故を防ぎましょう！

～安全フレーム、安全キャブ付きトラクターを使用し、低速車マークの設置、シートベルト・ヘルメット着用を徹底しましょう～

農林水産省の調査データによると、近年300人前後の方々が農作業中の事故で亡くなっています。農作業中の死亡事故は一般交通事故の約5倍、建設業の約2倍にも及びます。農機事故を未然に防ぐために備えるべき機器（ランプ等）や操作時の安全確認と予防対策をもう一度考えてみましょう。

## 事故発生の要因

公道での農機の交通事故は大きく分けて単独事故と他の車両からの追突事故の2種類があります。

### 単独事故

- ① 用水路等への転落  
運転操作ミスや道路環境が悪いことにより、田畑や用水路等へ転落。
- ② 傾斜地での横転等  
農機は通常の車に比べ重心位置が高いため傾斜地等でバランスを崩して横転。傾斜地等で自然に動き始めた農機にひかれる事故。

### 追突事故

夜間等における追突  
夜間は後続車から農機が発見されにくく、追突事故が起こる。



事故を防止するには

## 事故防止の対策

公道での農機による交通事故対策の3つのポイント！対策と準備が重大な事故を防止します。

- ① **確実な運転操作とブレーキ連結の確認** 農機による死亡事故は、ハンドルやブレーキ操作ミスによる単独事故が多いため、道路状況等に応じた確実な運転を行いましょう。道路走行時は必ず左右のブレーキを連結しましょう。農作業前後に道路上を走行する際は、ブレーキ連結をしていないと、ブレーキを踏んだときに急旋回して転落、横転する事故につながる恐れがあります。
- ② **安全キャブ・フレームの装着とシートベルト・ヘルメットの着用** 救命効果の高い安全キャブやフレームが付いているトラクターを利用しましょう（※安全フレームは倒さずに使いましょう）。農機による交通事故においても、シートベルト着用の有無により死傷状況が大きく異なります。トラクター等の農機運転中は必ずシートベルトを着用しましょう。また、ヘルメットの着用にも努めましょう。
- ③ **ランプ類や低速車マーク等の取り付け** 一般車両との接触や追突を防ぐためには周囲に気づいてもらうことが大切です。「低速車マーク」や「反射板」を設置しましょう。また、作業機を付けて公道を走行するためには、基本的にランプ類の増設等が必要です。

阿賀野市のホームページからもご覧いただけます！

阿賀野市 園芸情報

検索

もしくは、二次元コードを読み取ってください。

